

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-207956

(43)Date of publication of application : 12.08.1997

(51)Int.Cl. B65D 41/62  
B65D 51/18

(21)Application number : 08-038961 (71)Applicant : ARCO:KK

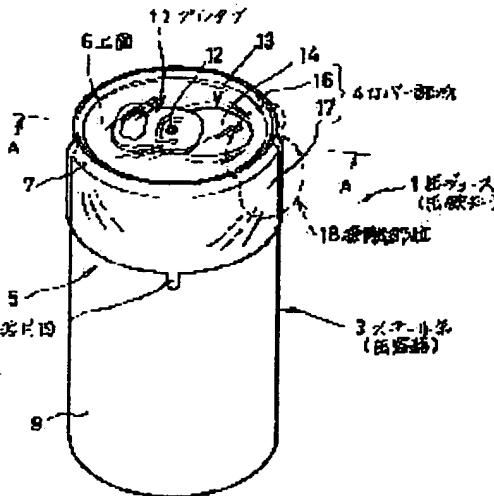
(22)Date of filing : 01.02.1996 (72)Inventor : MIWA YOSHINOBU

## (54) CAN DRINK

### (57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a can drink with a highly hygienic sense.

SOLUTION: A transparent vinyl cover member 4 is put on a steel can containing a juice. The steel can is provided with a pulltab 11 forming a drinking opening on the upper face 6. The cover member 4 is constituted of a top 16 covering the upper face 6 of the steel can 3 and a closely sticking part 17 extending to the side face 9 of the steel can 3. The closely sticking part 17 is provided with a length necessary for covering the contact position with the mouth when drinking the juice from the drinking opening. A tongue flap 19 is formed at the lower edge of the closely sticking part 17. The contact position 18 is protected from dust and stain with the cover member 4.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 19.09.1997

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 10.08.1999

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-207956

(43)公開日 平成9年(1997)8月12日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>  
B 65 D 41/62  
51/18

識別記号 庁内整理番号

F I  
B 65 D 41/62  
51/18

技術表示箇所  
D  
A

審査請求 未請求 請求項の数7 FD (全8頁)

(21)出願番号 特願平8-38961

(22)出願日 平成8年(1996)2月1日

(71)出願人 396001441

有限会社アルコ  
東京都練馬区中村南3-19-1 第一常盤  
ハイツ202号

(72)発明者 三輪 義信

東京都練馬区中村南3-19-1 第一常盤  
ハイツ202号 有限会社アルコ内

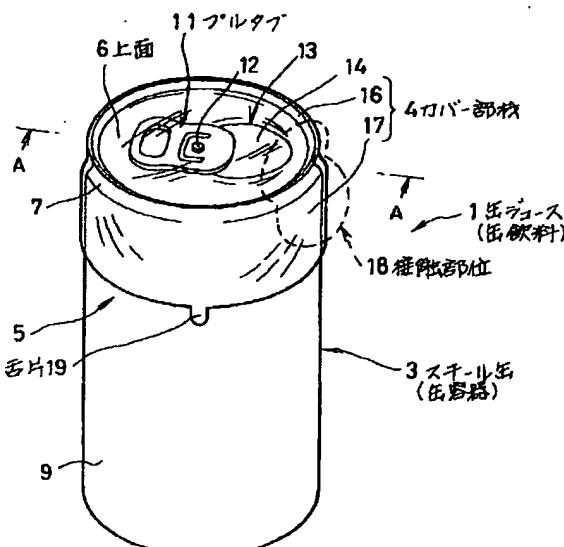
(74)代理人 弁理士 三好 千明

(54)【発明の名称】 缶飲料

(57)【要約】

【課題】 清潔感の高い缶飲料を提供する。

【解決手段】 ジュース2を収容したスチール缶3の上面に透明ビニールからなるカバー部材4を設ける。スチール缶3は、飲み口を形成するブルタブ11を上面6に有する。カバー部材4を、スチール缶3の上面6を覆う天部16と、天部16に連続してスチール缶3の側面9に密着した密着部17とにより形成する。密着部17は、飲み口よりジュースを飲用する際に、口が接する接触部位18を覆う為に必要な長さ寸法を有する。密着部17の下縁に舌片19を形成する。前記接触部位18は、カバー部材4により、ほこりや汚れから保護される。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 缶容器に収容された飲料を飲用する際に、前記缶容器の上面に開口部を形成する缶飲料において、

前記上面を覆う天部と、該天部より連続して前記缶容器の側面に密着する密着部とからなるフィルム状のカバー部材を、前記缶容器に設けたことを特徴とする缶飲料。

【請求項2】 前記開口部は、前記上面に設けられたブルタブを操作することにより開放される飲み口であって、前記密着部は、前記飲み口より前記飲料を飲用する際に、口が接する接触部位を覆う長さ寸法に設定されていることを特徴とした請求項1記載の缶飲料。

【請求項3】 前記密着部に、下縁より上方へ向けて延在するミシン目を形成したことを特徴とする請求項1または2記載の缶飲料。

【請求項4】 前記密着部の長さ寸法を下方へ延長するとともに、この延長部分に、前記密着部の下縁より上方へ向けて延在するミシン目を形成したことを特徴とする請求項2記載の缶飲料。

【請求項5】 缶容器に収容された飲料を飲用する際に、前記缶容器の上面に開口部を形成する缶飲料において、

前記上面を覆う天部と、該天部より連続して前記缶容器の側面に沿って延在する延在部と、該延在部に連続して下方に延びるとともに、前記缶容器の側面に密着する密着部とからなるカバー部材を、前記缶容器に設け、前記延在部を、前記開口部より前記飲料を飲用する際に、口が接する接触部位を覆う長さ寸法に設定する一方、前記密着部に、下縁より上方へ向けて延在する縦部、及び該縦部に連続して前記缶容器の周方向に沿って延在する横部からなるミシン目を形成したことを特徴とする缶飲料。

【請求項6】 前記密着部の下縁に、舌片を形成したことを特徴とする請求項1から5のいずれか記載の缶飲料。

【請求項7】 前記カバー部材は、抗菌性を有していることを特徴とした請求項1から6のいずれか記載の缶飲料。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、缶ジュースや缶ビール等の缶飲料に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来、清涼飲料水、ジュース、酒、ビール等の飲料は、アルミ缶やスチール缶などの缶容器に収容されており、店頭あるいは自動販売機にて販売されている。この缶容器は、中空円柱状に形成されており、飲用の際には、前記缶容器の上面に開口部を開設するよう構成されている。

## 【0003】

10

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、前記店頭で販売されているものに関しては、陳列の際に、前記缶容器の上面に、ほこりやばい菌などが付着することがある。また、前記自動販売機にて販売される場合であっても、自動販売機に収容する際に、前記缶容器の上面や側面に汚れが付着があるとともに、自動販売機の取り出し口にて缶容器の側面に汚れやばい菌が付着することがある。これらの場合には、清潔感が損なわれるばかりでなく、前記飲料を開口部よりコップ等に注ぐ際、または、前記開口部より直接飲用する際に不衛生である。

【0004】本発明は、このような従来の課題に鑑みてなされたものであり、清潔感の高い缶飲料を提供することを目的とする。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するために請求項1の缶飲料にあっては、缶容器に収容された飲料を飲用する際に、前記缶容器の上面に開口部を形成する缶飲料において、前記上面を覆う天部と、該天部より連続して前記缶容器の側面に密着する密着部とからなるフィルム状のカバー部材を、前記缶容器に設けた。

【0006】すなわち、この缶飲料は、前記上面及び前記側面がフィルム状のカバー部材によって覆われているので、ほこり、汚れ、ばい菌が付着することがあっても、飲用に際して開口部が形成される前記上面及び前記側面は、これらから保護される。そして、飲料を飲用する際には、カバー部材は缶容器から取り外される。

【0007】また、請求項2の発明においては、前記開口部は、前記上面に設けられたブルタブを操作することにより開放される飲み口であって、前記密着部は、前記飲み口より前記飲料を飲用する際に、口が接する接触部位を覆う長さ寸法に設定されている。

【0008】つまり、前記開口部は、口を着けて飲料を飲用することを目的とした飲み口であり、前記カバー部材の天部及び密着部は、口が接する接触部位を覆っている。このため、前述したように、飲用に際して口が接する接触部位へのばい菌や汚れの付着が防止される。

【0009】さらに、請求項3の発明では、前記密着部に、下縁より上方へ向けて延在するミシン目を形成した。

【0010】すなわち、前記カバー部材を前記缶容器から取り除く際には、缶容器の側面に密着した密着部は、ミシン目に沿って下縁より上方、すなわち天部へ向けて破断される。

【0011】加えて、請求項4の発明では、前記密着部の長さ寸法を下方へ延長するとともに、この延長部分に、前記密着部の下縁より上方へ向けて延在するミシン目を形成した。

【0012】つまり、前記カバー部材を前記缶容器から取り除く際には、前記密着部は、延長部分のミシン目に

20

30

40

50

沿って下縁より上方へ向けて破断されるとともに、この破断部より前記天部まで連続的に破断される。

【0013】また、請求項5の缶飲料にあっては、缶容器に収容された飲料を飲用する際に、前記缶容器の上面に開口部を形成する缶飲料において、前記上面を覆う天部と、該天部より連続して前記缶容器の側面に沿って延在する延在部と、該延在部に連続して下方に延びるとともに、前記缶容器の側面に密着する密着部とからなるカバー部材を、前記缶容器に設け、前記延在部を、前記開口部より前記飲料を飲用する際に、口が接する接触部位を覆う長さ寸法に設定する一方、前記密着部に、下縁より上方へ向けて延在する縦部、及び該縦部に連続して前記缶容器の周方向に沿って延在する横部からなるミシン目を形成した。

【0014】すなわち、この缶飲料は、飲料を飲用する際に口が接する接触部位が、前記カバー部材の天部及び延在部によって覆われており、該延在部に連続した密着部が、缶容器の側面に密着しているので、請求項1の缶容器と同様に、飲用に際して口が接する接触部位へのほこり、汚れ、ばい菌の付着が防止される。そして、飲用の際には、前記缶容器の側面に密着した密着部は、ミシン目の縦部に沿って下縁より上方へ向けて破断された後、前記ミシン目の横部に沿って前記缶容器の周方向に破断される。

【0015】さらに、請求項6の発明では、前記密着部の下縁に、舌片を形成した。

【0016】これにより、前記カバー部材を前記缶容器から取り除く際には、舌片をつまんで引っ張ることにより、前記カバー部材は、缶容器から取り外される。

【0017】加えて、請求項7の発明では、前記カバー部材は抗菌性を有している。

【0018】このため、前記カバー部材に覆われた前記缶容器の部位においては、抗菌性が保たれる。

【0019】

#### 【発明の実施の形態】

(第1の実施の形態)以下、本発明の第1の実施の形態を図にしたがって説明する。図1及び図2は、本実施の形態にかかる缶飲料としての缶ジュース1を示すものである。この缶ジュース1は、一般的に市販されているものと同様に、飲料であるジュース2が収容された缶容器としてのスチール缶3からなり、該スチール缶3の上部には、カバー部材4が設けられている。

【0020】前記スチール缶3は、有底円筒状の缶本体5と、該缶本体5の上部開口部を閉鎖する上面6により構成されている。前記缶本体5の上縁には、外形寸法が縮径された縮径部7が形成されており、前記上面6は、この縮径部7の内径寸法に適合した外形寸法を有している。また、前記上面6の全周縁には、上方に屈折した屈折部8が形成されており、該屈折部8は、前記缶本体5の側面9外方に折り返され、この折り返し部10に

て接合されている(図2参照)。

【0021】前記上面6の中央には、横長のブルタブ11が設けられており、該ブルタブ11は、その中央部が固定ピン12により固定されている。前記ブルタブ11の一端側における前記上面6には、前記缶本体5の側面9側に向かって延在する楕円弧状の易破断部13が形成されており、前記上面6には、前記易破断部13によって包囲された蓋部14が形成されている。つまり、前記ブルタブ11の他端側を持ち上げると、図3に示すように、てこの原理によってブルタブ11の一端側が、前記蓋部14を下方に押圧するように構成されており、これに伴い、前記易破断部13が破断され、前記上面6に開口部としての飲み口15が形成されるように構成されている。

【0022】一方、前記カバー部材4は、スチール缶3の印刷を透視できるように透明フィルム状のピニールによって形成されており、図2に示したように、前記スチール缶3の上面6を覆う天部16と、該天部16に連続して前記スチール缶3の側面9に密着した密着部17とからなる。すなわち、製造された缶ジュース1に、ほこり、汚れ、ばい菌などが付着する以前に、熱膨張させた有底筒状のピニールを、前記スチール缶3の上部に嵌合させた後、これを冷却縮小させてスチール缶3に取り付けることにより、前記天部16がスチール缶3の上面6から離間した位置にて引張されるとともに、前記密着部17が、前記折り返し部10、縮径部7、及び前記側面9に密着するように形成されている。また、前記密着部17は、前記飲み口15よりジュース2を飲用する際に、口が接する接触部位18を覆う為に必要な長さ寸法を有しており、この密着部17の下縁には、下方に延出した舌片19が形成されている(図1参照)。

【0023】以上の構成からなる本実施の形態において、前記缶ジュース1は、ジュース2を飲用する際に口が接する接触部位18を含む上部がカバー部材4によって覆われているので、前記接触部位18は、ほこり、汚れ、ばい菌から保護される。このため、スチール缶の上面や側面が露出している従来の缶ジュースのように、長期に亘り店頭に陳列される場合であっても、前記接触部位18に、ほこりやばい菌が付着することはない。また、自動販売機にて販売される場合においても、取り出し口にてスチール缶3の側面9における前記接触部位18に汚れやばい菌が付着することなく、これにより清潔感が向上する。

【0024】また、前記カバー部材4の密着部17は、前記スチール缶3の側面9に密着しているので、自動販売機内における引っ掛かりが防止されるとともに、前記密着部17は、スチール缶3の上部のみ、つまり、前記接触部位18を覆う為に必要な長さ寸法に設定されているので、スチール缶3の側面9の総てを覆う場合と比較して、成形コストの低減化を図ることができる。さら

に、前記カバー部材4には、下縁に舌片19が形成されているので、この舌片19を、つまんで引っ張ることにより、前記カバー部材4を、スチール缶3から容易に取り外すことができる。

【0025】そして、ジュース2をコップに移して飲用する際には、図3に示したように、ブルタブ1の他端側を持ち上げ、このブルタブ1の一端側により蓋部14を押圧して前記易破断部13を破断させることにより、前記スチール缶3に飲み口15を形成する。このとき、蓋部14の先端が、ジュース2内に浸かることがあるが、前記上面6の一部である蓋部14は、前記カバー部材4によって、ほこり、汚れ、ばい菌から保護されていたので、衛生的である。また、コップに注ぐ際に、ジュース2が、前記上面6または前記側面9に沿って流れても、従来のように、上面や側面に付着した汚れ、ほこり、ばい菌が、注がれるジュース2に混入する恐れがなく、衛生的である。さらに、前記飲み口15より、ジュース2を直接飲用する際には、前記上面6及び前記側面9における前記接触部位18に口が接するが、この場合においても、前述と同様に、汚れやばい菌の付着がないため衛生的である。

【0026】(第2の実施の形態)なお、第1の実施の形態においては、熱膨張させた有底筒状のビニールを、前記スチール缶3の上部に嵌合させ、これを冷却縮小させてスチール缶3に取り付ける場合について説明したが、図4に示すように、熱膨張させた筒状のビニールを、前記スチール缶3の上部に嵌合させ、このビニールをスチール缶3の上面6側にて折り畳むようにして密着させ、天部16を形成した後、冷却縮小させてスチール缶3に取り付けてもよく、この場合には、冷却に伴い前記天部16が引張されるとともに、該天部16に接合部20が形成されるので、カバー部材4を外す際に、前記天部16を指で押圧することにより、前記カバー部材4を前記接合部20より容易に破断することができる。

【0027】(第3の実施の形態)図5は、第3の実施の形態を示す図であり、第1の実施の形態と異なる部分についてのみ説明する。

【0028】すなわち、缶ジュース1の上部に設けられたカバー部材4は、スチール缶3の上面6を覆う天部16と、該天部16に連続して前記スチール缶3の側面9に密着した密着部17とからなり、該密着部17は、ジュース2を飲用する際に、口が接する接触部位18を覆う為に必要な長さ寸法を有している。この密着部17には、下縁より下方に延出した舌片19が形成されており、前記密着部17には、前記舌片19の基端から前記天部16に達する一本のミシン目31が、上方に向けて形成されている。

【0029】以上の構成からなる本実施の形態において、前記カバー部材4を取り外す際には、前記密着部17の下縁に形成された舌片19を、つまんで引っ張る。

すると、スチール缶3に密着した密着部17は、前記ミシン目31に沿って破断され、これにより、前記カバー部材4を、スチール缶3から容易に取り外すことができる。

【0030】(第4の実施の形態)なお、第3の実施の形態では、前記密着部17に一本のミシン目31を形成した場合について説明したが、図6に示すように、前記舌片19の基端両側から前記天部16に達する二本のミシン目32、33を形成しても良く、この場合には、二本のミシン目32、33が破断されるので、この破断部の間に、指を入れて前記密着部17を容易に開くことができる。したがって、キャップ4の取り外し作業が、さらに容易となる。

【0031】(第5の実施の形態)また、図7に示すように、舌片19の基端から天部16に達するミシン目34を、密着部17の側面に沿って螺旋状に形成しても良い。

【0032】(第6の実施の形態)図8は、第6の実施の形態を示す図であり、第1の実施の形態と異なる部分についてのみ説明する。

【0033】すなわち、缶ジュース1の上部に設けられたカバー部材41は、スチール缶3の上面6を覆う天部16と、該天部16に連続して前記スチール缶3の側面9に密着した縦長密着部42とからなり、該縦長密着部42は、ジュース2を飲用する際に、口が接する接触部位18を覆う為に必要な長さより長い寸法を有している。つまり、この縦長密着部42の長さ寸法は、第1の実施の形態における密着部17より、寸法し分長めに設定されており、縦長密着部42は、前記接触部位18を保護する保護部43と、該保護部43より下方に延長された延長部44とからなる。該延長部44の下端には、舌片19が形成されており、前記延長部44には、前記舌片19の基端両側から前記保護部43へ向けて二本のミシン目45、46が形成されている。

【0034】以上の構成からなる本実施の形態において、前記カバー部材41の縦長密着部42は、前記接触部位18を保護する保護部43と、該保護部43より下方に延長された延長部44とからなり、この延長部44にミシン目45、46が形成されているので、ばい菌や汚れがミシン目45、46より侵入することがあっても、これらの前記接触部位18への付着を確実に防止することができる。

【0035】そして、前記カバー部材41を取り外す際には、前記延長部44の下縁に形成された舌片19を、つまんで引っ張る。すると、前記縦長密着部42は、前記延長部44の範囲内にてミシン目45、46に沿って破断される。さらに前記舌片19を引っ張ると、保護部43においても破断が生じ、やがて前記天部16に達する。これにより、前述した第4の実施の形態と同様に、前記カバー部材41を、スチール缶3から容易に取り外

7 すことができる。

【0036】(第7の実施の形態)図9は、第7の実施の形態を示す図であり、第1の実施の形態と異なる部分についてのみ説明する。

【0037】すなわち、缶ジュース1の上部に設けられたカバー部材51は、第1の実施の形態におけるカバー部材より硬質の部材からなり、スチール缶3の上面6を覆う天部16と、該天部16に連続して前記スチール缶3の側面9に沿って延在する延在部52と、該延在部52より下方に延びるとともに、前記側面9に密着した密着部53とにより構成されている。前記延在部52は、ジュースを飲用する際に、口が接する接触部位18を覆う為に必要な長さ寸法を有しており、この延在部52の下端には、舌片54が形成されている。また、前記延在部52には、前記舌片54の左基端から上方へ向けて延在する縦部55と、該縦部55に連続して図中右側に屈曲する円弧部56と、該円弧部56に連続して前記スチール缶3の周方向に延在する横部57とからなるミシン目58が形成されている。前記横部57は、その先端が、前記円弧部56の図中左方の部位に達しており、前記横部57の先端から前記円弧部56までの離間距離は間隔Sに設定されている。

【0038】以上の構成からなる本実施の形態において、前記缶ジュース1は、ジュースを飲用する際に口が接する接触部位18が、前記カバー部材51の天部16及び延在部52によって覆われているとともに、該延在部52に連続した密着部53が、スチール缶3の側面9に密着しているので、第1の実施の形態の缶ジュースと同様に、飲用に際して口が接する接触部位18へのほこり、汚れ、ばい菌の付着を確実に防止することができる。

【0039】そして、飲用の際には、前記密着部53の下線に形成された舌片54をつまんで引っ張る。すると、スチール缶3に密着した密着部53は、ミシン目58の縦部55、円弧部56、及び横部57に沿って破断され、これにより、前記カバー部材51を、スチール缶3から容易に取り外すことができる。

【0040】また、カバー部材51は、該カバー部材51の天部16及び延在部52を破断することなく、スチール缶3から取り外すことができるので、前記天部16を底面、前記延在部52を側面とする容器状のコップ、あるいは、灰皿として使用することができる。さらに、ジュースを飲み残した際には、このコップをスチール缶3の上部に取り付けることにより、キャップとして使用することができる。

【0041】また、前記ミシン目58の横部57の先端と前記円弧部56とは離間しているので、ミシン目58を破断しても、前記延在部52と前記密着部53とが切り離されることがない。したがって、カバー部材51を、コップ、灰皿として使用する際のごみの発生を防止

することができる。一方、取り外したカバー部材51を使用しない場合には、スチール缶3の底部に外嵌させておくことができるとともに、ジュース飲用後には、前記スチール缶3と前記カバー部材51とを一体にして廃棄することもできる。

【0042】なお、前記各実施の形態においては、スチール缶3にジュース2を収容した缶ジュース1を例に挙げて説明したが、アルミ缶などの缶容器に、清涼飲料水、酒、ビール等の飲料を収容した缶飲料であっても同様の効果を得ることができる。また、ブルタブ11を操作することにより、スチール缶3の上面6に飲み口15を形成する缶ジュース1について説明したが、例えば、穴開け用具を利用して、缶容器の上面に穴を開設する缶飲料であっても良い。

【0043】また、各実施の形態では、製造された缶ジュース1に、ほこり、汚れ、ばい菌が付着する前に、前記カバー部材4、41、51を、前記スチール缶3の上部に取り付けた場合について説明したが、製造された缶ジュース1を消毒処理した後、前記カバー部材4、41、51を取り付けても良い。

【0044】さらに、各実施の形態では、前記カバー部材4、41、51を透明のビニールによって形成し、スチール缶3の印刷が透視できるようにしたものを示したが、例えば、前記カバー部材4、41、51に、応募券や意匠などの印刷を施してもよい。また、前記カバー部材4、41、51の密着部17、53、縦長密着部42は、スチール缶3の中途部まで延在するものについてのみ説明したが、例えば、スチール缶3の下縁まで延在するものや、さらには、スチール缶3の上面6、側面9及び底面の総てを覆うものであっても良い。そして、前記カバー部材4、41、51を、他の材質からなる部材によって形成しても良く、例えば、抗菌剤を含有、あるいは、抗菌剤が塗布された合成樹脂によって形成した場合には、抗菌効果を得ることができ、さらに衛生的な缶ジュース1となり得る。

【0045】

【発明の効果】以上説明したように、請求項1の缶飲料にあっては、長期間店頭に陳列され、または、自動販売機にて販売され、ほこり、汚れ、ばい菌が付着することがあつても、飲用に際して開口部が形成される缶容器の上面、及び側面は、前記ほこり、汚れ、ばい菌から保護されるので、缶容器の上面や側面が露出している従来の缶飲料と比較して、清潔感が向上する。また、前記カバー部材を取り外し、缶容器の上面に形成された開口部より飲料をコップなどに注ぐ際には、飲料が前記上面または前記側面に沿って流れても、前記汚れ、ばい菌、ほこりが混入する恐れがなく、衛生的である。さらに、前記開口部より飲料を飲用する際には、前記上面及び前記側面に口が接するが、この場合においても、前述と同様に衛生的である。

【0046】また、請求項2の発明においては、前記開口部は、口を着けて飲料を飲用することを目的とした飲み口であり、前記カバー部材の天部及び密着部は、口が接する接触部位を覆っているので、前述したように、飲用に際して口が接する接触部位へのばい菌や汚れの付着を確実に防止することができる。これにより、カバー部材を取り外し、前記開口部に口を着けて飲用する場合における衛生性を確保できる。そして、前記密着部は、前記接触部位を覆う長さ寸法に設定されているので、缶容器の側面の総てを覆う場合と比較して、成形コストの低減化を図ることができる。

【0047】さらに、請求項3の発明では、カバー部材を缶容器から取り除く際に、缶容器の側面に密着した密着部を、ミシン目に沿って下縁より天部へ向けて破断することができるので、カバー部材の取り外しが容易となる。

【0048】加えて、請求項4の発明では、前記密着部の長さ寸法を下方へ延長し、この延長部分にミシン目を形成することにより、カバー部材を缶容器から取り除く際に、前記延長部分のミシン目に沿って破断するとともに、この破断部より前記天部まで連続して破断することにより、前記カバー部材を容易に取り外すことができる。加えて、口が接する缶容器の接触部位には、ミシン目を形成しないため、ミシン目からほこりや汚れが侵入することがあっても、これらの前記接触部位への付着を防止することができる。

【0049】また、請求項5の缶容器にあっては、飲料を飲用する際に口が接する接触部位が、カバー部材の天部及び延在部によって覆われており、該延在部に連続した密着部が、缶容器の側面に密着しているので、請求項1の缶容器と同様に、飲用に際して口が接する接触部位へのほこり、汚れ、ばい菌の付着を防止することができる。このため、カバー部材を取り外し、前記開口部に口を着けて飲用する際、あるいは、前記開口部より飲料をコップなどに注ぐ際ににおける衛生性を確保できる。また、カバー部材を取り外す際には、缶容器の側面に密着した密着部を、ミシン目の縦部に沿って下縁より上方へ向けて破断した後、前記ミシン目の横部に沿って缶容器の周方向に破断することができるので、カバー部材の取り外しが容易となる。そして、カバー部材は、該カバー部材の天部及び延在部を破断することなく、缶容器から取り外すことができるので、前記天部を底面、前記延在部を側面とするコップとして使用することができる。

【0050】さらに、請求項6の発明では、舌片をつまんで引っ張ることによって、カバー部材を缶容器から取り外すことができるので、カバー部材の取り外しが容易

となる。

【0051】加えて、請求項7の発明においては、前記カバー部材に覆われた前記缶容器の部位においては、抗菌性を保つことができるるので、さらに衛生的な缶容器となり得る。

【0052】

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施の形態を示す斜視図である。

【図2】図1のA-A断面図である。

【図3】同実施の形態における使用状態を示す要部の断面図である。

【図4】本発明の第2の実施の形態を示す斜視図である。

【図5】本発明の第3の実施の形態を示す斜視図である。

【図6】本発明の第4の実施の形態を示す斜視図である。

【図7】本発明の第5の実施の形態を示す斜視図である。

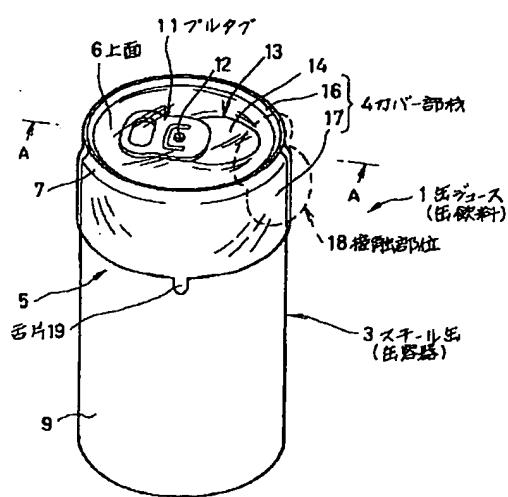
【図8】本発明の第6の実施の形態を示す斜視図である。

【図9】本発明の第7の実施の形態を示す斜視図である。

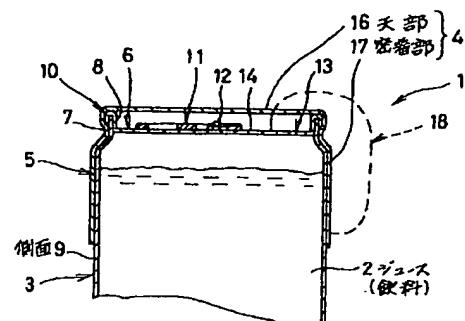
#### 【符号の説明】

1	缶ジュース（缶飲料）
2	ジュース（飲料）
3	スチール缶（缶容器）
4	カバー部材
6	上面
9	側面
11	ブルタブ
16	天部
17	密着部
18	接触部位
19	舌片
31～34	ミシン目
45, 46	ミシン目
41, 51	カバー部材
52	延在部
53	密着部
54	舌片
55	縦部
57	横部
58	ミシン目
L	寸法

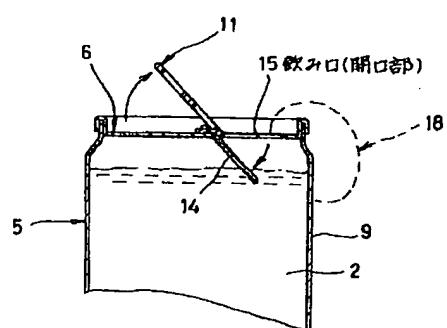
【図1】



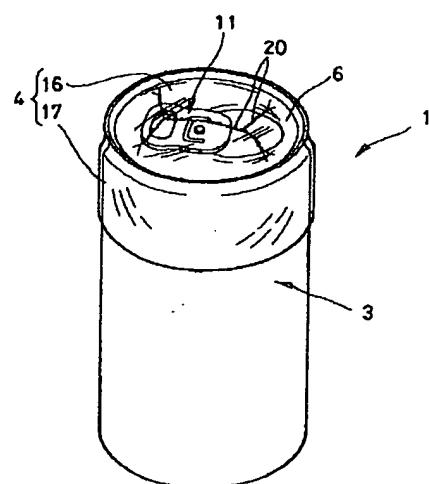
【図2】



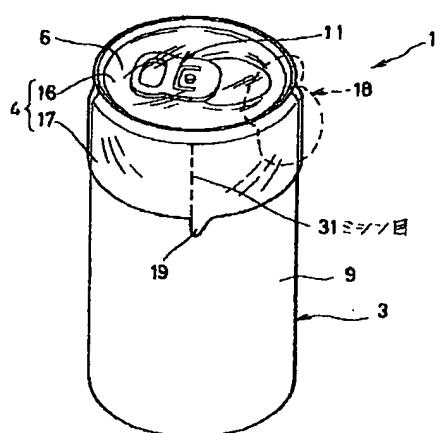
【図3】



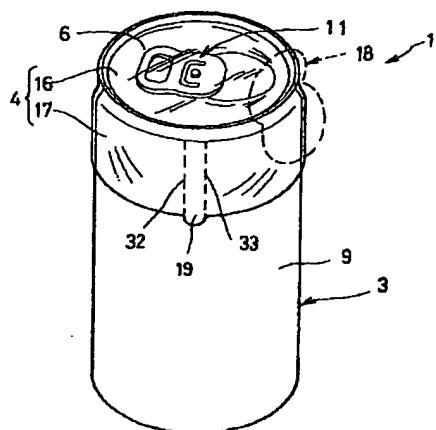
【図4】



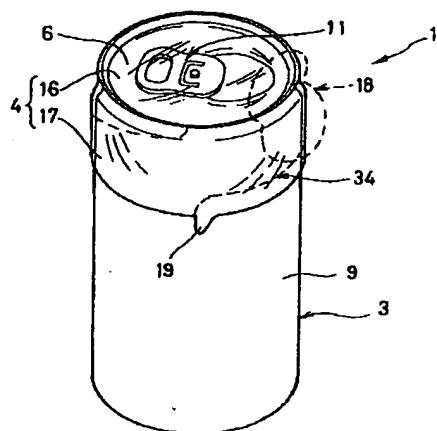
【図5】



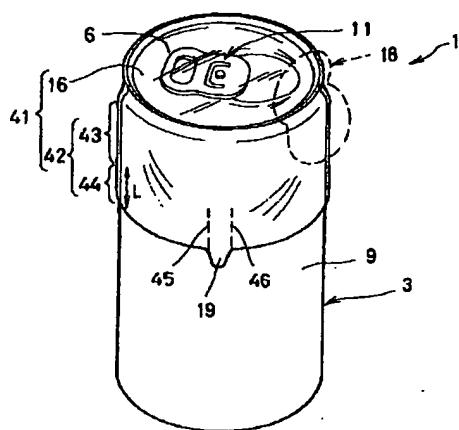
【図6】



【図7】



【図8】



【図9】

